

【取扱い厳重注意】

平成24年6月14日

## 聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員 仁保智紀

平成24年5月31日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

### 記

#### 第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

##### 1 被聴取者

民主党参議院議員 北澤俊美（事故当時は防衛大臣）

##### 2 聴取日時

平成24年5月31日午後1時30分から同日午後2時30分まで

##### 3 聴取場所

北澤議員事務所（参議院会館424号室）

##### 4 聴取者

高嶋参事官

岡田参事官補佐

三田主査

仁保主査

##### 5 ICレコーダーによる録音の有無等

■ あり

□ なし

#### 第2 聴取内容

事故対応全般について

#### 第3 特記事項

特になし

以上

【取扱い厳重注意】

○質問者 では、質問事項の最初の2つについてお伺いさせていただければと思います。

まず、1点目なんですけれども、こちらは報道でも一部報道されておるところではあったんですが、3月11日に地震が起こりまして、東京電力の清水社長が当時関西の方にいたようなんですけれども、その後へりで東京に戻ってくる際に、一度自衛隊機さんの方に乗せていただくという調整をされたようなんですが、我々これまでのヒアリングで、最後、当時大臣でいらっしゃった北澤先生の方に御意向を確認されて、へりには乗せないという判断になったと聞いておりまして、その経緯と乗せるべきでないという御判断をされた理由についてお伺いできればと思います。

○北澤元大臣 11日の21時30分ごろだということなんです、その前に伊藤危機管理監から当時の櫻井運用局長に対して、依頼があったわけではないが、東京電力の社長が関西に行った帰り、東京に戻るのに手間取っているんで自衛隊機でお願いするようになるかもしれないという程度のことを櫻井局長に言ったそうです。これは私が櫻井局長から直接聞いた話で、では、その後どうしたのと言ったら、担当の事態対処課長に、もしかするとこういう依頼があるかもしれないという話をして、その後、今度は小牧の部隊の方へ、名古屋方面まで来ているという情報が入ったんだろうと思うんだけど、現地に対してそういう話があったようです。

ただし、ついに一度も正式な依頼はなかったんです。東京電力からもないし、危機管理監からもないし、また、もし民間人を乗せていくということになれば大臣の指示も必要ですが、大臣の指示を出す前提とすれば、経産省の事案ですから、経産省と防衛省との間で官庁間協力というのかな、そういう名目で乗せるということになりますから、そういうのはなかった。

それで、私は防衛省へ帰る途中、2時間ぐらいかかった。2時間半か。官邸から防衛省に行くのにね。盛んにいろいろな問い合わせや情報がどんどん入ってくる中で、事態対処課長から今度は逆に、こういう状況にありますけれどもどう対応したらいいですかと。そのときに、C-130の輸送部隊はどういう体制をとっているのかということを知りたいところ、私直接ではなくて秘書官に対する電話で間接的に来たから、その体制はどうなっているということを知ったら、翌朝の4時何分から4班に分かれてDMATの輸送に対処しているという返事があったんで、この災害の状況にかんがみて、自衛隊のあらゆる能力は災害対応を最優先にしろという指示を出したんです。

社長を乗せるとか乗せないとかというのは正式な話になっていない話ですから、私の指示は災害にすべてを投入しろということであったわけですが、ここから先は、私がこれを言ったのは23時20分ごろのようですね、後で調べたところ。23時30分に航空自衛隊のC-130が名古屋空港を離陸か。そして23時、同時ですね。事態対処課長から担当者を通じて部隊へ連絡。航空機は離陸したばかりということであり、名古屋空港へ引き返すよう連絡をした。これは微妙なんだけれども、私は社長が乗って離陸したという事実は全く知らないわけ。だから、そういう依頼があるかもしれないという前提のもとにその話をしたら

【取扱い厳重注意】

課長がこういう指示を出して、結果的にこの時間のずれで、乗った社長を引き戻したという結果にはなったわけですね。

○質問者 わかりました。

○北澤元大臣 それと、国会論議や何かの中で精査した結果、震災発生当時、新幹線、15時31分に新大阪より東にいた上り電車のみ、各駅停車で運転を再開していたということ。運転再開直後の列車は混雑していたが、20時台のひかり、のぞみの指定席乗車率は70%程度。22時19分発の名古屋発新幹線は、乗客が200人程度であった。これは翌日の0時44分に東京着。なお、名古屋発最終電車は22時30分名古屋発で、翌日の2時19分に東京に到着。要するに、一般の交通機関は稼働していたということですね。これが実情。

○質問者 わかりました。

1点だけ。そういった中で震災対応にヘリを充てるべきであるという御判断をされたときに、当時は原発事故も起こっていて、まだ初期段階ではあったものの、事故対応の中心的人物である清水社長をなるべく早く帰した方がいいのではないかというお気持ち、やはりそれでも震災対応を優先すべきだという判断であったということ。

○北澤元大臣 それは違うんで、そういう依頼があるかもしれないという危機管理監の話以後、全く何の連絡も来てないわけですから、そこをおもんばかる必要は全くなかった。私にしてみれば、名古屋空港、私はずっと小牧だと思っていたんだ。

○質問者 これは隣接。

○北澤元大臣 一緒だな。隣だからな。

それで、そこによもや社長が来ているということも承知をしてないし。ただ、あえて言えば、こういう事態の中で大臣の指示がないのに民間人を乗せて、しかも、規則上、省庁間協力も成立してない中で動いてしまったということは残念なことではあるね。

もし、私のところへそういうことで社長を運んでくれということがあれば、当然東電が正式に官邸へ依頼して、官邸が調整をして、省庁間協力を成立させて大臣の指示を仰ぐというのが正式ですから、そういうことがなかったから、私からすれば、よもや社長がそこへ来ていて乗って動いたなんていうことは想定できなかつたんですね。

○質問者 わかりました。

続いて2点目でございますけれども、これもこれまでのヒアリングで伺っておりまして、3月20日に総理大臣から、原子力災害対策本部長名で、現地の放水作業等については、自衛隊が中心となって調整をするようにという指示が出されたということでもございまして、3月18日、2日前ぐらいからちょっと現場が混乱しているということもあって、自衛隊が中心にやるべきだということがあったようなんですが、結局その指示が正式に3月20日に出たというのは、その日に北澤先生と菅総理が直接お話をされて、やはり総理からの指示が必要なのではないかという話があったと聞いておるんですけども、これはどういった経緯で総理とお話をされて、具体的に。

○北澤元大臣 確かに早い段階で現地が混乱しているということで、だれかがきちんと指

【取扱い厳重注意】

揮をとらなければいけないという話にはなっていたんです。そこで、総理から自衛隊で、防衛大学校の卒業式か。あのときに2人で立ち話をしたんですけれども、たしかその前にもう一回、官邸で会議の後に話をしたと思うんですよ。そのときに私は、宮崎の口蹄疫の例も総理には話した。

ちょっと外れるかもしれぬが、宮崎の口蹄疫のときも、今度は縦系列で、国と、防衛省も行く、農水省も行く、それから県がいて市町村があるという中で、現場の担当者たちが常に自衛隊の指揮官に対して、早く自衛隊が総合指揮をとってくれないかと、そうしないと混乱や重複ばかりで困るということを再三言ってきたんですけれども、そのときに私は、これは市町村の事業で我々は応援部隊だから、県というものがあるから県を中心にやるべきだと言っておいたんですけれども、結果的に、事実関係とすれば自衛隊が総合的に対応したということ。その話をしたんです。その経験から総理に、今回はまた、今まで経験のないような災害ですから、総理に、もしこれを指示されるなら文書で指示してくれませんか。今後の参考にするためにも、こういう経緯でやったということをはっきりさせておいた方がいいということと、ほかの省庁も総理指示ならば納得するからということで総理にお願いして。

これは皆さんのところにあるんだね。

○質問者 いただいています。

○北澤元大臣 確定版ね。

文書で指示を出していただいて、自衛隊が指揮をとった。

○質問者 わかりました。

総理の指示であれば各省も納得するということなんですけれども、それは、それ以前に各省も、総理の指示がなければ自衛隊の下には入れないという声が大臣のところまで届いていたということでしょうか。

○北澤元大臣 現場の話とすれば不満があったとか何とかではなくて、お互いに自分たちが仕事をしようとする。狭いところですから、混雑がだんだん膨らみ始めているという報告はありましたね。

○質問者 わかりました。

もう一点だけ。こちら、実は18日に出た資料でございまして、発出者が総理ではなくて細野補佐官。20日には総理名で出ておりまして、私、井上事態対処課長にお話を伺った際に、まさにこの紙の位置づけがちょっと判然としないので、総理からきちんと出してもらった方がいいねという話にもなった流れがあるということも伺ったんです。

○北澤元大臣 それはそのとおりだと思うんだよ。私はこれを見てないんだ。私の段階では。

事務方には私の方から、総理から明確に依頼があったから、総理から文書が出ることになっているよという話を防衛省の事務方には言ってありますから、そこで最初、こういうものでやろうと思ってつくったんだろうと思うんだね。だけれども、それが総理と防衛大

【取扱い厳重注意】

臣との間できちんとした話が成り立っているからということで、防衛省もこれを要求したんだと思うんだね。すぐ出たということです。

○質問者 わかりました。

20日のお話というものは、北澤大臣の方から総理の方に文書を出してくださいとお願いをされて、総理が了承されたという形であったということ。

○北澤元大臣 そう。これは防大の卒業式のときの立ち話みたいな形で、私もそのようにやりますけれども、これは各省庁が関わることだから総理の文書を出してくださいと言って、総理はそうしましょう。

○質問者 それで結果的に文書が出された。

○北澤元大臣 そうですね。

○質問者 わかりました。ありがとうございます。

○質問者 次は私からなんですけれども、作業員の緊急時の被ばく線量限度が、3月14日に250ミリシーベルトに引き上げられたんですが、その3日後の17日に、再度500ミリシーベルトまで引き上げるべきだという、それについて議論された会議が夕方ごろにあったと聞いているんですけれども、そちらに北澤大臣も行かれていたんですか。

○北澤元大臣 あれは原子力の災害対策本部の会議だと思うんだけど、そこで500ミリに上げるという提案なのか、話があって、そこで私は余りにも唐突過ぎると。しかも、朝令暮改のようなことは、かえって国民に不安感を与えるという意見を言って、そこでは結論は出ないで。出ないというか、出そうとしてなかったな、そのときにはね。こういう意見がある、皆さんいかがでしょうかというようなことで私は私の意見を言って、防衛省に戻って、こういう提案があったけれども皆さんの意見を聞かせてくれと。私はこういう発言をしてきましたよという話をして、これは私の意を体するというよりも、むしろ防衛省の中のみんなの意見も同じ意見でね。

それで、防衛省とすればこれは反対だということで、たしかそれを文書でまとめて総理のところを持っていったと思うんだ。

今のは3だね。

○質問者 そうです。

○北澤元大臣 ここに書いてある。

緊急対策本部より省に戻られた北澤防衛大臣が、19時10分ごろ、線量限度について250ミリシーベルトから500ミリシーベルトに引き上げる旨の官邸からの提案を省内で協議するため、関係者、徳地人事教育局長と山本衛生監などを大臣室に呼んで、引き上げについては現場の混乱への懸念と必要性が乏しいことから、省として反対することで意思統一。人事教育局長が、その旨を文書にまとめることとなった。

10分後には作成した文書を持って、再度、人事教育局長と衛生監等が大臣室に入り、大臣が文書を確認、了承。大臣はその後すぐに、19時～20時ごろ、この間だと思いますということなんですが、官邸に出向かれ、文書を直接総理などに渡され、防衛省の意見が受け

【取扱い厳重注意】

入れられたということです。

この文書についてはありますね。

○質問者 済みません、それは持っていないです。

○北澤元大臣 線量限度の変更について。では、コピー。

○質問者 コピーさせていただいてもいいですか。

○質問者 済みません、ありがとうございます。

○北澤元大臣 4部ですね。

○質問者 1部で結構です。

このときに、中野国家公安委員長と何か電話で連絡をとられた御記憶はございますか。

○北澤元大臣 中野さんから電話が来ていたな。あれは余り記憶にないな。中野さんはどういうふうに言っていた。

○質問者 中野委員長も、官邸で北澤大臣と同席して、500 ミリシーベルトに上げるという話が出たのは、総理の部屋だったのでしょうか。

○北澤元大臣 それは対策本部の会議ではなかったかな。総理執務室だと言っていたか。

○質問者 対策本部の後に総理執務室に。

○質問者 移って。

○北澤元大臣 わかった、そうか。そこで私は意見を言ったんだけど、また執務室へ行ったんだな。

○質問者 恐らく。

○北澤元大臣 そうだ。

○質問者 そのときは、どちらかという中野委員長は慎重論を述べられたと聞いておりまして、その後、中野委員長も戻られて北澤大臣と電話でお話をされたと。

○北澤元大臣 それは私と同じ意見だったんだよ。そのとおりだ。

○質問者 最後に、原発事故に係る米国との協議についてなんですけれども、もともと防衛省の方はミリ・ミリで、軍と軍で、在日米軍と防衛省の中で協議をしていたというふうにお伺いしていたんですけれども、どうやら3月16日～20日の間に、今度は原子力発電所事故の関係で特化して、NRCですとか米軍とかと協議をしていたというふうにお伺いしたんですけれども、3月15、16日からこういった協議が始まった経緯についてお教えいただいてもよろしいですか。

○北澤元大臣 これでいくと、16日の9時～11時。

○質問者 はい。

○北澤元大臣 このときに会議を開いているんだな。このときはまだ来てないのかな。ちょっと待ってください。

その前にちょっと概略を申し上げると、局長クラスから、どうも官邸と米側との連携がうまくいかないで、表現が適切かどうかはわからんが、ルース大使初め米側は少しいら立っているという話が私のところで上申されたんで、私が官邸で総理に、米国との関係がよく

【取扱い厳重注意】

ないようだねという話をしたら、実はそうなんですと言って、実は前から頼もうと思っていただけけれども防衛大臣の方で調整してくれませんか。これが前段にあって、それからこの話に入るわけなんですね。

○質問者 菅総理と直接相談されて、菅総理から御依頼を受けた。

○北澤元大臣 依頼を受けた。

○質問者 わかりました。

○北澤元大臣 官房長官ではなくてね。

○質問者 はい。

○北澤元大臣 それでNRCを防衛省に呼ぼうということになって、防衛省の局長クラスの幹部、制服組も含めて、たしかあれは統幕の副長たちだと思うんだけども入って、そこに経産省からも既に来ていて、そこで概略の説明をして、米側は、そのときNRCの委員長や何かは専ら聞き役でいましたが、そこで会議を開いて、その後すぐ防政局長が主催して日米の会議をやって、その翌日、翌々日ぐらいいまでに3回か4回会議を開いたということのようで、それを経て対策本部の方へNRCが参加をするようになったと、そういうふうに私は記憶しています。

○質問者 3月17日の午前11時ごろに、その前日にも1回、全体で、防衛省の中でNRCと会議を開いているんですけども、その翌日の3月17日にルース大使が実際に、北澤大臣がお部屋にいらっしゃって、いろいろとお話をされたというふうにお伺いしているんですけども、まずそれは事実。

○北澤元大臣 17日に大使が来たかどうか、今、記憶がないな。17日にNRC関係者と意見交換があったんだな。

○質問者 はい。

○北澤元大臣 18日だ。

18日に、ルース大使と防衛大臣室で意見交換。大使より、可能な限りあらゆる支援を惜しまない旨発言があった。

このときは防衛省内で、事務次官、防政局長、NRCの関係者もまた来ているんだね。このときは全員ではなくて幹部だけが来ています。

○質問者 今、確定的に言えるところは、3月18日にルース大使と初めて会われて意見を交換された。

○北澤元大臣 そう。14時40分になっているね。

○質問者 そのとき、ルース大使はどのようなことをおっしゃっていましたか。

○北澤元大臣 このときは正常になりましたから、とにかく米側は、あらゆる支援を惜しまないから何でも要望を言ってほしいと、我々は同盟国ですよということを非常に強調していたな。日ごろ、日米安全保障条約で同盟関係を結んでいるんだけど、こういう危機にならないと実感として同盟関係というのは感じないんだな。だから、このときには私自身も、本当の同盟国なんだということはかなりはっきりと意識した。変な話だけれども、

【取扱い厳重注意】

体感としてな。

このときに、NRCの方からもいろんなことを具体的にね、私が今、頭にあるのはバージ船のことなんだけれども、さまざまな機器類だとかシーバーフのことだとか、そういうことを盛んに具体的に言っていました。

その一方で、太平洋司令官のウィラードさんから折木統幕長にいろいろなことを言われて来られていたね。

○質問者 その際にルース大使は、例えば原発の事故の情報について、もうちょっと統一的にくれないかとか。

○北澤元大臣 そういう要請はなかった。もうこのときにはその前に会議を開いて、更にまた大臣室を離れて、防政局長の会議にNRCの皆さんが出席して、日本側も情報を隠す意図が全くないということはそこでわかったと思いますよ。いろいろなことを全部。経産省もそこに入っていましたからね。

アメリカ側が、官邸は情報を出し渋っているとか、我々を中に入れたいという懸念を持ったのは、多分ちょうどあれが発生して、米側が500キロか。

○質問者 50マイル。

○北澤元大臣 避難しろとかと指示が出て、あんなのは当たり前の話なんだね、自国民を安全にさせるというのは。そういうものが、だれが感じてだれが言ったというような雰囲気ではないんだけど、全体的にアメリカは逃げてデータだけを欲しがっているのではないかという空気が、どうも官邸の中にあったというのが、後で聞いた話とすればね。

○質問者 こういった16から20までほぼ毎日、原発関係の会議がされたと思うんですけども、3月19日ごろと3月20日、どっちかはちょっとわからないんですけども、菅総理に、中江次官や折木統幕長らと一緒にレクチャーに入られたというふうにお伺いしているんですけども、それはこういった会議の状況を御説明されるというようなレクチャーだったんですか。

○北澤元大臣 あ那时的の中身か。

○質問者 はい。

○北澤元大臣 多分一連の、防衛省自衛隊として対応した経過を説明に行ったと思うんだ。

要するに、米軍のグローバルフォークで撮った写真だとか、自衛隊が独自で撮った写真で1号から4号までの現状。それから、17日にヘリから散水した。そういうようなことと、もう一つは先ほども出た、自衛隊が指揮をとって統一的に放水を指揮した話。

もう一つ重要だったのは、象さんだとかキリンさんとかと言われた放水の調達、実施。そういうことをまとめて報告に行ったと記憶しているな。

○質問者 最後の質問なんですけれども、3月22日に、細野大臣と福山官房副長官を中心に、実際に官邸主導で日米協議の方が始まったとお伺いしているんですけども、その日米協議が官邸主導で始まった経緯みたいなものは、北澤大臣は御存知ですか。

○北澤元大臣 それは、今、説明した日米間の多少のすれ違いみたいなものが解消された



【取扱い厳重注意】

ことをベースにして、今度はそれがオフィシャルな形になったということですね。

○質問者 それまでは、防衛省の方でも経産省が入って協議をやっていたわけですが、それだと何か足りないものがあったということなんでしょうか。

○北澤元大臣 福山さんたちが出てきて。

○質問者 はい。

○北澤元大臣 それはそういうことではなくて、我々が防衛省の大臣室でやったり、高見澤防政局長がやった会議は、ある意味日米の連携の助走期間みたいなもんだな。菅さんに、アメリカとの関係をすぐ修復してほしいと言われてやったことがそれで、それがオフィシャルになって官邸が対応に入った。

○質問者 なるほど。

日米関係で、冒頭でお聞きしたのは、総理から、アメリカとの間でうまくいってないからよろしく頼みますという話があったということでしたけれども、時期的に言うと、日米協議が始まるのは3月22日なんですけれども、そこからさかのぼりますと、事故発生後から言うとどのぐらいのことなんでしょうか。事故発生が3月11日で、日米協議が始まるのは22日なんですけれども、どうもぎくしゃくしていたのは。

○北澤元大臣 日記帳があるとわかるんだが。私が菅さんに米国のことを話して、菅さんが、北澤さんをお願いしたいんだと言われたんだね。だから、私や防衛省は16日～20日までの間に対応したわけだな。

○質問者 その直前ごろということ。つまり、15日ごろとか。

○北澤元大臣 16日は放水をする予定でできなかった日だから、それより前だな。

○質問者 そういうことになるわけですか。わかりました。

○質問者 高見澤防政局長から、3月15日に米国との関係がぎくしゃくしているという話があるみたいだということをお聞きしましたというお話を。

○北澤元大臣 そうか。多分それを聞いて、私が総理に言っているはずだ。

○質問者 恐らく3月15日辺り。

○北澤元大臣 これはちょっと日にちが書いてないな。

そういう経過からすれば、15日というのは少し遅いような気もするんだ。11日からでしょう。

○質問者 そうしますと菅総理は、防衛省が主体となって日米間で協議をしていることは、もうとっくに御存じのはずなんですね。

○北澤元大臣 そういうことは耳に入っていたんでしょう。

○質問者 実際に聞いたところによると、防衛省の会議の模様というのが、菅総理にきちんと連絡が行っていたか行っていないか、そこがよくわからないんです。

○北澤元大臣 行ってない。

○質問者 行ってなかったんですか。

○北澤元大臣 私に頼んだから私のやり方でやりますよと言って、米側へ連絡してNRCに

【取扱い厳重注意】

来てもらったんだ。NRC が来ているところでその日までの概略をみんな説明して、それで彼らは何も隠すことなく話してくれたという印象を持ったんだな。

○質問者 その模様というのは、恐らく3月19日に中江次官や。

○北澤元大臣 報告にね。それはつながっているな。それだけではないけれどもね。

そこに日米の項目はないか。

○秘書官 日米のところまでは。

○北澤元大臣 私が菅さんに、アメリカとちょっとうまくいってないみたいだねと言った日にちは覚えてないんだな。日記を見ると書いてあるかもしれない。

そこは重要なところかい。

○質問者 もし、日にちがわかれば。

○北澤元大臣 11日に起きたんだから、12、13、14ぐらいだろうな。

○質問者 実は聞いたところによると、3月13日と14日ごろにルース大使と枝野長官がお電話で話されていて、なかなかうまく情報交換ができていなかったという状況をお伺いしているんですけれども、何かそういった情報が北澤大臣のところに入ったというところでしょうか。

○北澤元大臣 それが高見澤局長から私に報告が入ったことの中に入る。私は14日に仙台に行っていますから、そこから帰ってきてからだから、15、16ぐらいのところだな。15、16、そうか。依頼があったから、放水について総理と頻繁に話をしているんだよ。

○秘書官 NRCのことはここに書いていますね。

○北澤元大臣 14日夜遅く、官房長官にルース駐日大使から電話があり、NRCのメンバーを官邸に常駐させてほしい旨伝えられた。NRCには原子炉の管理にたけている人が多くと、こういうような。だから、ルースさんは14日の夜遅く、官房長官のところには電話しているんだな。

それに対し官邸は難色を示し、検討をするということでその場は終わったが、その後も官邸にNRCの面々を入れることを拒み続けていた。

菅総理から、私が仲介するように命じられた。これは命じられたのではなくて、お願いされたんだよ。

○質問者 わかりました。

○北澤元大臣 それが15日のことだった。私は折木統幕長と中江次官、そして秘書官を伴い、総理執務室で自衛隊の対応状況を説明した後、総理からこう声をかけられた。北澤さん、お一人でちょっと残ってもらえませんかということで。今、思い出してきた。

実は、官邸も外務省もアメリカ側とうまくやれていないんです。北澤さんはルース大使とじっこんであると聞いています。アメリカ側との関係を取り持ってもらえないでしょうか、こういうふうに言われた。15日だ。

○質問者 わかりました。

○北澤元大臣 それで、先ほどと重複するけれども、16日午前にNRCのメンバーを呼んだ

【取扱い厳重注意】

ということですね。

○質問者 ありがとうございました。

○北澤元大臣 あなた方みたいな形で検証しておくことは、後々のために大事だよな。